



**KELAB JEPUN KUALA LUMPUR**  
THE JAPAN CLUB OF KUALA LUMPUR (PPM 004142511963)  
NO.2, JALAN 1/86, OFF JALAN TAMAN SEPUTEH, 58000 KUALA LUMPUR.  
TEL: 03-2274 2274 FAX: 03-2274 3584 Email: office@jckl.org.my

**第 58 回 K L日本人会年次総会 議事録（案）**

開催日時：2022 年 6 月 25 日（土）午前 10 時 30 分～11 時 40 分

場所：KL 日本人会 第 1 ホール

出席者：0001 / A-0698 荒木、0002 / A-0704 安部、0003 / I-1271 伊藤、0005 / T-1845 高松、  
0006 / H-1247 星合、0013 / S-1977 阪口、0022 / S-2138 佐藤、0023 / K-2605 鎌田、  
0024 / S-2104 白石、0026 / K-2471 児島、0040 / H-1231 堀口、0053 / S-2135 荘司、  
0064 / H-1249 平田、0164 / O-1266 小幡、0184 / M-1824 本村、0370 / T-1839 瀧澤、  
0801 / O-1205 小野澤、0866 / O-1167 岡部、0906 / O-1243 小沢、0914 / K-2620 神林、  
0916 / N-1409 中島、F-0157 藤井、K-1955 川村、M-1007 万代、M-1338 森田、M-1587 松  
尾、S-1172 杉山、Y-1320 柳井、Y-1386 山田、0748 / T-1896 多田、A-0705 足立、A-0706 有  
留、A-0722 赤澤、D-0066 土井、H-1253 林、H-1254 樋山、I-1307 生田、I-1321 池田（隼）、  
I-1349 池田（滝）、K-2580 葛西、K-2607 國料、M-1816 町田、M-1839 水上、M-1859 森  
田、N-1383 長島、O-0989 岡本、O-1249 小野田、O-1277 岡田、O-1279 小川、S-2054 瀬名  
波、S-2118 城間、S-2119 佐々木、S-2140 陶山、T-1842 田口、T-1860 田中、T-1863 多田  
（明）、T-1888 高橋、T-1890 田中、U-0432 上野、Y-1385 安永、Y-1413 吉田

以上、参加者 61 名（議決権：83）（敬称略・順不同）

※守護監事はオンラインで参加

■ 定足数の確認／開会

（柳井事務局長）

開会に際し定足数の確認を行い、10 時 30 分定刻の時点で、全体の総議決権数は出席者と委任状合わせて 277 以上があり、会則 7 条 2 項(a)に基づき本総会は適正に成立したとして開会が宣言された。

開催時の出席者（議決権数）は、理事の最大定員（29 名）の 2 倍以上にあたる 57 名（議決権数 79）。開会までに事務局で受け付けた有効な委任/議決権の数は 198 であり、議長に委任 195 通、出席会員に委任 3 通であった。（最終的に確定した出席者数 61 名（議決権数 83）、委任含む議決権総数 281）

■ 議長の選出

（柳井事務局長）

会則 9 条（a）に従い、岡部会長が本総会の議長に選出された。

（1）第 57 回年次総会議事録案の審査

（岡部会長）

会員の皆様へ 2022 年 5 月 25 日（総会案内時）に E-mail にて送付された議事録について、審査が行われた。

第 57 回年次総会議事録案は、意義なく原案通り承認された。

（2）2021 年度事業報告及び会員数推移報告

① 2021 年度事業報告（要旨）

（岡部会長）

岡部会長より各委員会の 2021 年度事業の総括報告がなされた。その概要は次の通り。

**総務委員会**

会長、副会長、各委員長、顧問で構成した総務委員会を毎月理事会の 1 週間前に招集し、委員会等からの様々な提案事項を検討・審議し、その結果を理事会へ報告または上程した。また、各委員会間にまたがるような日本人会の運営上の課題や中長期の各種課題に対して議論を行い、必要に応じ継続的に審議するようにした。

## 規約関係

環境・慣習の変化を踏まえ、定期的に規約を見直していく作業を行ってきた。

## セカンドホーム関係

・2021 年度についても新型コロナ感染拡大及びマレーシア政府による活動制限に伴い、例年通りのイベント開催が出来なかったことから、セカンドホームが関連するボランティア活動は殆ど実績が無かった。

・MM2H 申請の新条件に関するアンケートでは、会員ネットワークを通じて非会員にも広く協力を呼び掛け、またマレーシア国内他地域の日本人会にも協力を要請し、799 件の回答を得た。この結果を踏まえ、大使館のご支援の下、東海よりマレーシア内務省他への嘆願書を提出した。

## 企画広報委員会

・例年 4 月末又は 5 月初旬に実施してきた子どもの日イベントは実施できなかったが、2021 年 4 月作品提出型のイベントを行い、応募された作品は、会館及び HP に掲載、51 作品 50 名の参加があった。参加者には参加賞を、また委員長賞、特別賞（会員による投票）を選定した。

・例年 12 月に実施してきた形でのクリスマスイベントは実施できなかったが、2020 年同様、2021 年 12 月作品提出型の「ぬりえイベント」を行い、応募された全 154 作品は、会館及び HP に掲載した。参加者には参加賞を、また委員長賞、特別賞（会員による投票）を選定した。

## 会員関係

例年、偶数月に開催している「新規入会者の集い」は、2021 年 4 月と 12 月の 2 回のみオンラインで開催。

## ニュースレター編集委員会

・毎月初旬にホームページへ掲載、E-mail にて会員へのお知らせを発信してきた。

・今年度の編集委員会はコロナによる活動制限により主にオンラインにて、ボランティア編集員を含む編集委員によるニュースレター編集会議を開催し、毎号の編集内容、その時期にあったコンテンツを検討、編集方針を決定。決定内容に従い、編集委員による取材活動、原稿の作成を行い、また寄稿については原稿の作成依頼を行って編集・校正作業を実施し、毎月新鮮な題材或いは時節に則した記事をタイムリーに会員に提供した。NL の編集を毎月安定的に続けることは大きな負担もあり、編集委員の皆様へ感謝を申し上げる。

## 財務委員会

・定例理事会にて月次財務報告を実施。（収支報告については別途財務報告で詳細を報告）

・昨年に続き、コロナによるイベント中止やテナント料減少の影響はあったものの、事業収入は予算超過、黒字着地。今後も会員数の動向に留意しつつ、コスト管理を徹底する必要有り。

## クラブハウス委員会

2021 年度も引き続きクラブハウスの維持管理のため各種工事等の対応を行った。

## クラブハウス将来計画小委員会

・2022 年 3 月 31 日事業終了の 2021 年度の決算を受け、小委員会内で 2021 年度の新会館建設積立金計上額を検討した結果、約 411 千円を積み立てる事を理事会で決議した。

・クラブハウスは 1976 年、1985 年、1993 年の 3 期に亘り建設されている。昨今の財政その他の要因もあり現在は 2045 年頃の建て替えとなるよう想定している。

・建物延命のためには、必要な改修工事、建物構造、敷地東西の斜面補強工事、ゲート入り口の人工地盤等の耐久性の定期点検等が必要となるため、コンサル会社に入ってもらい、今後中長期的にメンテを実施していく計画としている。

## 店舗委員会

・2021 年 8 月：会館テナントの変更があった。

## 文化活動委員会

・2022 年 3 月末現在、47 の部・同好会が活動。コロナによる会員減少等の影響から廃止 5、休会中 2。

・2021 年度日本語講座は、MCO のため開催できなかった。

・JFKL 主催、KL 日本人会が協賛している日本語弁論大会はコロナウィルスの影響で中止となった。

## スポーツ活動委員会

・2022 年 3 月末現在、合計：21 部・同好会が活動。廃止 2、休会中 1

## 学校委員会

・2021 年は 2020 年に引き続きコロナ禍による行動制限が 1 年を通じて断続的に継続したことで、園児・児

童・生徒の減少が止まらず、2022 年 3 月時点で、幼稚部、商学部、中学部の合計は 524 名。

・2021 年度も昨年度に引き続き、年間を通してコロナ禍にともなう断続的な休校措置が取られる中ではあったが、学校教育目標は「めざす学校像」は「入ってよかった、通わせてよかった、勤めてよかった JSKL」、「めざす子どもの姿」は「元気で最後まで取り組める子、誰にでもやさしく出来る子、夢を持って世界へはばたける子」、「めざす教師像」は「優れた授業で勝負する教師、子どものよさを育て共に成長する教師、常に努力を惜しまない教師」を掲げ、休校期間中、分散登校時においてもオンラインを基軸とした教育活動を推進した。

・そうした中、2018 年度より取り組んでいる①ICT 教育の充実、②英語教育の充実、③心の教育の充実、の 3 本柱の学校経営計画は継続して強化推進した。ICT 教育への取り組み強化のせいもあり、11 月から始まった分散登校では、対面授業とオンライン授業をミックスさせたハイブリッド型授業を行うことができた。

#### 2021 年度学校予算・決算

・学校一般会計（小中学部）：小中学部の年間平均児童生徒数は前年から大幅な減少を見込み 594 名と想定していたが、実績は更に生徒が減少し、授業料収入が予算を下回るも、政府援助等により全体では予算比 96%、前年比 85%で着地した。

一方で支出は、断続的な休校措置と各種行事の制限等に伴い、光熱給水費、委託管理費、行事費等が低下すると共に、不要不急の支出を先送りする等の対策を行い全体では予算比 87%、前年比 92%となり、収支は 642 千円の黒字で着地した。

・学校一般会計（幼稚部）：幼稚部では園児数の減少傾向を勘案して 55 名と予想していたが、実績は予算より更に園児数が減少し大きく予算を下回った。支出は各種コストをコントロールするも固定費を中心に削減難しく、268 千円の赤字となった。2022 年度新学期に入って園児の減少傾向に歯止めがかかる兆しも見えるが、園経営は予断を許さない状況が続く。

・学校維持会計及び新校舎会計については、事前配布資料に記載の通り、大きな問題は生じていない。

・学校運営の管理体制強化の一環として、今年度より日本人会事務局から、事務局長をオブザーバーとして学校運営理事会に参画して貰う様にした。また日本人会名義である新校舎会計を財源とする学校の大修繕プロジェクトのタスクフォースへも、監視役として参画して貰うこととした。

・学校運営体制の整備については、順次、諸課題について理事会で共有しながら整理を推進してきたが、未だに課題は多い。2022 年度はコンプライアンス、法務の専門家と業務委託契約、或いは顧問契約という形で支援を受けられる体制を整え、一気に運営体制の再構築を進める予定であり、理事会としても積極的に関与していきたい。

#### 教育施設管理委員会

テナントである帝京マレーシア及び KL 日本人幼稚園の契約管理及び契約更改を行った。

#### 福利厚生委員会

・はぐみ会、出産準備教室・・・20 年度に続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響で開催できなかった。

・予約制オンライン無料健康相談・・・21 年 1 月から月 1 回の頻度で、バトよしみ医師によりボランティアで実施していただいている。21 年度も継続して行い、59 名の利用があった。また、7 月～11 月には週 1 回の頻度で、新型コロナウイルス感染に関する相談も実施頂き、29 名の利用があった。参加者からは、大変ご好評をいただいております、バトよしみ先生にはあらためて感謝を申し上げます。

・2021 年 8 月、マレーシア保健省傘下の Malaysia Healthcare Travel Council 及び Sunway Medical Centre の協力により新型コロナウイルス感染症及び同ワクチンについてのヘルストークを開催した。聴講者 50 名の参加があった。

#### 日本人墓地維持管理委員会

・MCO 下、恒例の春秋の慰霊祭は SOP の遵守のため、前年度と同様に開催不能となり有志による焼香、献花を実施した。

・パハン州バントンで発見された日本人墓碑をクアラルンプール日本人墓地に移送すべく、移送業者が現地を確認したところ、現場が無許可で整地されており墓碑が行方不明となっていることが判明した。

・2022 年 1 月にパハン州政府州務担当の主催で合同会議が開催され、墓碑の再捜査をバントン警察が行うことが確認された。

・2022 年 3 月に安倍晋三前総理が岸田首相の特使として日馬外交関係樹立 65 周年並びに東方政策 40 年を記念して、宮川元大使他政府関係者等と共に来馬、クアラルンプール日本人墓地を訪問し記帳された。日本人会会長、日本人商工会議所児島会頭などの関係者にて、お出迎えをさせていただき、焼香、献花を行っていただいた。

## IT システム委員会

システム改訂に向けてテストを継続中であり、実施段階まで改善を重ねていく。

## 盆踊り実行委員会（2021）

感染防止の観点から、第 44 回に続き、第 45 回 KL 盆踊り大会の開催を中止した。

## バザー実行委員会（2021）

マレーシア政府 SOP 遵守の為、規模を縮小して開催することとし、2021 年 12 月 12 日（日）第 49 回チャリティバザーを KL 日本人会第 1 ホールにて開催。当日は来場者約 340 名。

約 RM51,400 を 11 ヶ所の福祉施設に寄付する提案を、JCKL 慈善基金に対し行った。

開催にあたり、ご協力いただいた皆様に改めて感謝を申し上げる。

## 新年会実行委員会（2022）

2022 年 1 月 8 日に第 27 回新年会を、会館内にて開催した。例年実施していた駐車場でのステージや出店はソーシャルディスタンスのコントロールが難しいため取り止め、館内限定のイベントとした。餅つきは子供の体験の為のみとし、ついたお餅は配らず、代わりに切り餅をお土産にご来場いただいたみなさんへ配布した。第 1 ホールのステージでは、JSKL 園児及び部同好会の発表が行われた。また子供たちの楽しめるコーナーとして、ヨーヨー釣りや射的を実施。500 名程度の参加者があり、無事終了した。開催にご協力いただいた皆様に感謝を申し上げる。

## 海外安全関係

新型コロナウイルス感染症対応に関して、マレーシア政府による出入国管理情報、活動制限令等について、日本政府による水際対策強化に係る措置等について、それぞれ情報提供を行った。

## 婦人部

新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、様々な活動が中止されたが、以前より支援活動を続けてきた、PJ スパスティックセンター音楽セラピー及びブキナナス身障者施設ボランティアグループ連絡係とかとれあ会役員との連絡会を 6 月と 2 月に開催した。またオンラインでのボランティア活動を行った。

・10 月と 11 月 2020 年度の寄付先福祉施設 6 箇所を訪問。

・3 月 オンラインにて寄付先福祉施設 2 箇所をバーチャル訪問。

## チャリティバザー関連

・6 月よりバザーサポーターの皆さんと連携して活動を開始し、9 月からはチャリティバザー開催に向けて準備と協賛品・手芸品の値付け作業、販売品納品手続きを行った。日本人会窓口でマスク無人販売や 11 月にはかとれあ KIOSK を開催。2021 年 12 月 12 日（日）KL 日本人会第 1 ホールにて第 49 回 KL 日本人会チャリティバザー 2021 を開催。法人会員からの寄付金を含むチャリティバザー活動収益金：RM76,579.00

・2022 年 4 月 14 日（木）バザー収益金ドネーション贈呈式を行い、マレーシアの 11 福祉施設に対し総額 RM51,400 を寄付。

・日本人会開催イベントについて、1 月 日本人会新年会のお手伝いとして参加、墓参のお手伝いとして参加、日本人会新規入会者集いのスピーカーとして参加等のご協力をいただいた。

・日本人学校 PTA との交流：かとれあ会役員、バザーサポーター、PTA 役員の選出に際し、連携してきた。かとれあ会の活動は、東海の目的の一つである日馬友好に大いに貢献するものと考えており、関係者の皆様に感謝すると同時に会員の皆様から引き続きのご協力をお願い致したい。

## 全マレーシア日本人会

第 42 回目のマレーシア全日本人会連絡会が、2021 年 10 月 1 日（金）オンラインにて開催された。（KL 日本人会が幹事）12 か所の日本人会のうち、今回は 8 か所の代表が参加した。

また、同時に大使館主催で第 40 回安全対策協議会が開催され、感染危険情報、危険情報について、及びマレーシアの安全情報が共有された。

## ② 会員数推移報告

（柳井事務局長）

配布資料参照。

・法人会員：21 年 3 月末時点の 292 社から 22 年 3 月末 281 社へと、年間で 11 社、3.7%の減少。一昨年度の 23 社減からは多少減少数が穏やかになった。

・個人会員：21 年 3 月末時点で 1,442 世帯（ご家族含んで 3,363 名）から 22 年 3 月末時点で

1,284 世帯（ご家族含んで 2,917 名）と 158 世帯、11%、家族会員含め 446 名の減少。こちらも一昨年度の 238 世帯減から減少幅が減った。

・**個人会員のうち MM2H**：263 世帯から 204 世帯へと 59 世帯、22.4%の減少。家族会員含めると、年間で 115 名減。

・**賛助会員**：289 世帯から 272 世帯へと会員数は年間で 17 世帯、5.9%減少。減少幅は一昨年の 63 世帯減よりかなり穏やかとなった。

・**学生会員**は：7 名から 6 名へと 1 名減少。

| 会員種類             | 2021 年 3 月末会員数                         | 2022 年 3 月末会員数                         | 年間増減                        |
|------------------|----------------------------------------|----------------------------------------|-----------------------------|
| 法人会員             | 292 社                                  | 281 社                                  | -11                         |
| 個人会員<br>[内 MM2H] | 1,442 世帯 (3,363 名)<br>[263 世帯 (486 名)] | 1,284 世帯 (2,917 名)<br>[204 世帯 (371 名)] | -158 (-446)<br>[-59 (-115)] |
| 賛助会員             | 289 世帯 (554 名)                         | 272 世帯 (519 名)                         | -17 (-35)                   |
| 学生会員             | 7 名                                    | 6 名                                    | -1                          |

( ) 内は家族会員も含めた人数

総括：昨年度も全ての会員種別で会員数が減少。

原因は前年に引き続き新型コロナ感染拡大の影響によるものであるが、会員種別ごとに申し上げると、まず法人会員の減少については、最近の傾向として事業の縮小や撤退、経費節減、或いは代表者の現地人化等によるもの、また個人会員の減少は、同じく最近の傾向であるご家族帯同者の減少・単身者の増加に加えて、新型コロナ感染拡大に伴う帰国者の増加、新規赴任者の着任遅れであると考えている。MM2H の減少については、同じく新型コロナ感染拡大の影響に加え、昨年 10 月から適用された新規 MM2H ビザの発給条件の大幅な改定がもう一つの要因と見ている。この改定によって新規条件でのビザ取得者数が激減致しているが、一方、日本人の MM2H ビザ申請者が急増したのは 2011 年の東日本大震災以降で、それから 10 年を経過して丁度ビザの更新の時期を迎えている方が多く、この機会に本帰国される方が増えているという背景もある。賛助会員と学生会員の減少も、MCO による会館内店舗の閉鎖、講座やサークル活動の停止の影響と見ているが、規制の緩和に伴い、前年よりは減少幅が緩やかになってきている。

以上のとおり説明が行われた。

### (3) 2021 年度収支決算案の件（審議）及び監査報告

①決算案の件（当日配布資料参照、千円単位で四捨五入して説明）

（高松財務委員長）

#### 【事業収入】

#3000 会費・入会金：若干予算を上回る結果となった。施設利用料合わせて 247 万 9 千円と予算計画を 9 万円上回り、予算比 103.8%。

#3100 店舗や教育テナントからの収入：ロックダウンによる店舗の閉鎖、或いは客足の減少に伴い一部の店舗の家賃を減免したことの影響で合計 73 万 2 千円となり予算比▲3 万 1 千円、95.9%の実績。

#3200 その他の収入：期末の預り保証金等戻入益の分、予算を上回った。

#3300 その他の会員活動：ウェブサイト広告収入、図書券トップアップ、講座講習会等が予算を上回り、日本語講座の 2022 年度分の申込金のマイナスをカバーし合計では予算に対して約 1 万円の増収。

会員事業収入全体では 329 万 3 千円となり、予算比で 7 万 2 千円の過達、102.2%という結果。

#### 【事業支出】

#5000 事務局運営に関わる費用：全体として節約が出来、予算比 15 万円の削減、83%。

#5100 水道代：会館を利用できない期間があった関係で予算比大幅な削減となったが、電気代については、期末処理で一部テナントからの入金分を雑益に振替えたことから大幅な増加となっているが、その分 #3000 番台の雑益が大幅に増加。

#5200 通信費：郵便代の値上げによって予算比 3 万円の増加となった。

#5300 従業員の給与・福利厚生費は労務費、主に残業代の削減によって予算比▲4 万 7 千円

#5400 購読費・専門家費用：弁護士・コンサルの費用を全く使わなかったことで予算比▲2 万円 #6000 会員の活動に関する費用：MCO の影響もあり全体的に節約出来たことで予算比▲6 万 9 千円

#8000 プロジェクト費用：雨漏りの補修費用が予算より少なく済んだこと、IT プロジェクトの費用が翌期にズレ込んだことで予算比▲38万6千円の削減出来た。

#7000 日本人墓地の維持費用：予算を超過しているが、これは倒木によって壊れた墓地のフェンスの修理費用が発生した為でその費用の殆どは保険求償出来、保険会社からの入金と#3000 番台の雑益に計上済。事業支出全体では、予算363万9千円に対して実績311万5千円の実績となり、予算比52万4千円、14.4%の削減となった。

【会員事業収支】41万8千円の赤字予算に対し、17万8千円の黒字となり、予算比約59万6千円の過達となった。

【会員事業外収支】定期預金の利息収入が市場金利の下落に伴って予算を大きく下回ったものの、前述一部テナントからの水道料金の入金と、墓地フェンスの保険求償金の雑収入繰入れにより、営業外収支合計では予算より17万9千円のプラスという結果となった。

【経常収支】年度累計実績で48万6千円のプラスになり、予算比77万5千円の良化。

【財務収支】新規入会者と退会者共に予算前提よりも多かったものの、退会者数が入会者数を大きく上回ったことで、予算比6万2千円の悪化となった。

【総合収支】年度の現金収支実績が41万1千円のプラスとなり、計画に対し71万3千円の良化、黒字で着地。

現金収支全体として、前年度実績に比較して会員減少による会費・入会金の収入減、テナント家賃の減免による収入減、会員活動の制限による講座・教室の収入減により収入は減少したものの、予算比ではプラス。費用面では事務局運営費、会員活動に関する費用、クラブハウスの補修・改装費用やITプロジェクト関係の費用等の費目が計画を下回ったことにより、現金総合収支は予算より良化し、期末現金残高として836万4千円の現金を次年度に繰越す結果となった。

【損益決算書】総収益は367万2千円。償却前費用合計として309万1千円。そこから減価償却費用と税金を差し引いた税引き後当期利益が9万8千円という結果。

【貸借対照表】2022年3月末の当日本人会の総資産は、1,662万4千円と、前年度末比7千円増加。その内、流動資産は前年比39万7千円増加し858万8千円、土地建物、機械器具、備品等の円資産は、未完了のITプロジェクトの支払済費用である建設仮勘定29万3千円を含めて前年比39万1千円減少の803万6千円。

流動負債（会員預かり保証金、前受金、事務局員の賞与引当金、SSTの仮受等）と固定負債である退職引当金を合算して負債の部の合計は前年より9万1千円減少して116万7千円。資本の部（会員勘定）は、新会館建設積立金を合わせて前年比9万7千円増の1,545万7千円。

総括：2021年度は会館クラブハウスの補修費やITプロジェクトの推進費等で、赤字予算であったが、これらプロジェクト関係費用の節約や翌期へのズレ込みによって現金収支はプラスとなり、若干ながらまた現金を積み上げることが出来た。貸借対照表を見ても財務状況としては健全性を増していると考える。

## ②監査報告

（守護監事）

2022年4月26日に前田監事および守護監事2名によってKL日本人会一般会計の監査を行い、「監査の結果、いずれの会計も財務諸表は適正性を損なうような重要な不正・誤謬は認められなかった」との報告があった。

2021年決算については、異議なく、承認された。

## （4）新会館建設積立金報告

（平田クラブハウス将来計画小委員長）

2022年3月31日終了事業年度の決算で、約411千円の現金収支のプラス、約113千円の税前利益という結果となったので、クラブハウス将来計画小委員会より理事会に対し、同事業年度決算の現金収支プラス分の411千円を新会館建設積立金に繰り入れることを提案し、理事会で承認された。この結果、新会館建設積立金の残高は現在、約382万1千円となっている。

## （5）JCKL 慈善基金活動報告

（高松財務委員長）

2021年度は3月14日と12月12日の2回、KL日本人会会館第1ホールにて第48回と第49回のチ

チャリティバザーを夫々KL 日本人会婦人部かとれあ会が主担当となって開催した。これらバザーから得た収益については、まず第 48 回の収益を主な原資として、2021 年 4 月 23 日に贈呈式を実施し、総額 7 万 5 千リンギを 10 箇所の福祉施設に寄付。また第 49 回の収益については、本年 4 月 14 日に贈呈式を実施し、現在 5 万 1 千リンギを 11 箇所の施設に順次配布中。第 48 回分の寄付の具体的な内容は添付資料⑤－1 をご参照。財務報告：2021 年 12 月 31 日終了事業年度の決算財務諸表については、添付資料⑤－2～4（現金収支報告書、損益計算書、貸借対照表）をご参照。

現金収支：慈善事業収入としてチャリティバザーの収入とその他活動の収入を合わせた慈善事業総収入は、上の表の右下の年間集計の欄にある通り、9 万 9 千リンギ。

慈善事業支出：2019 年度チャリティバザー収益からの寄付拠出金が約 7 万 5 千リンギ、それにチャリティバザー開催費用や慈善基金運営費用を加えた慈善事業総支出が約 9 万 5 千リンギ。

事業外収支、財務収支を加味した年間の総合収支は +5 千リンギとなり、その結果期末の JCKL 慈善基金の現預金残高は 9 万 1 千リンギとなった。尚、本年 4 月にこの残高から 5 万 1 千リンギの寄付を実施している。財務的には、慈善基金は特段問題なく推移している。

・所得税免税措置の状況について：慈善基金は 2017 年 2 月 2 日から 5 年間、税法 44(6)条による免税許可を得ていたが、本年 2 月 1 日にその期限が到来致し、今年度以降の免税措置の延長について、現在 IRB(内国歳入庁)と交渉中。

#### (6) 2022 年度予算案の件

(高松財務委員長)

当日配布資料参照。以下の通り説明が行われた。

##### 【事業収入】

# 3000：会費関係収入：個人会員数はここ 2 年間新型コロナウイルス感染拡大の影響により大きく減少したが、最近是新規感染者数の減少に伴い、各種規制も緩和されつつあることから、減少傾向も多少緩まり、会費関係の収入は▲3%を見込んでいる。この結果、会員関係の収入は前年実績 247 万 9 千リンギに対し今年度予算では 241 万 2 千リンギと見積。

# 3100：テナント家賃収入：規制緩和に伴い会館に足を運ぶ会員の方々も増えてきており、通常の家賃に戻す前提で、家賃収入全体では前年実績より 27%の増益を見込んでいる。

# 3300：その他会員活動からの収入：ここ 2 年間で中止しておりました盆踊り大会を今年は開催する予定にしており、前年比約 8.5 倍の増収を見込んでいる。

会員事業収入全体：前年実績比 54 万リンギ、16%アップの 383 万リンギとしている。

##### 【事業支出】

・# 5000：事務局運営費用：# 5002 警備費：最低賃金改定の影響で前年実績比 20%アップ、# 5003 会館の定期維持管理費：大木剪定費用等で 11%アップ、# 5010 機器補修維持費：IT 化推進に伴うサーバー設置費用等を見込み前年実績比 483%。

・# 5400：日本人学校のライセンスに関連した弁護士費用を計上、同 115%。

・# 6000：活動費用：# 6006 盆踊り大会の実施や # 6007 新年会の従来規模での開催等を見込み同 539%。

・# 7000：墓地費用：今秋と来春の日本人墓地慰霊祭に、従来の様に日本からお坊さんに来て頂く前提で費用を計上。

・# 8000：プロジェクト関係：# 8002 クラブハウス補修費には会館の老朽化に伴う漏水対策費、ゲートバリアの設置費用を計上。# 8003 クラブハウス改装費にはホールの床の修理費を計上。# 8006 IT プロジェクト費用は今年度にズレ込んだ会員管理の新システム運用開始に伴う開発費残金の支払を見込んでおり、前年実績比べ大幅な増額を見込んでいる。

会員事業支出の予算計画値として今年度は 428 万 5 千リンギとなり、前年度実績と比較すると 117 万リンギの支出の増加を予測。

結果、会員事業収支は 45 万 1 千リンギのマイナス。定期預金利息や所得税等の事業外収支を加えた経常収支が 22 万 1 千リンギのマイナス、預かり保証金等の財務収支を加えた総合収支は 19 万 1 千リンギのマイナスとなる予算計画となっている。

従い 2023 年 3 月末の現預金残高としては、前期末の繰越約 836 万リンギから 19 万リンギ減少し、817 万リンギとなる見込み。

総括：会員減少に起因する会費関係の前年比収入減が約 7 万リンギ、家賃収入は 20 万リンギの増収、他には

盆踊り大会はその他イベントの実施による増収等で、収入全体では前年比 54 万リッギの増収。一方運営費については各種イベント再開に伴う経費の増加、クラブハウス補修費、IT プロジェクト費用等を見込み、会員事業支出では前年比約 117 万リッギの増加となる。これに事業外収支、財務収支を加味すると、前年実績比で約 60 万リッギの総合収支の悪化となり、今期の予算計画は赤字の予測となっている。

よって引き続き日々の運営コストの節約に努め、赤字縮小に取り組んで参りたく、会員の皆様のご理解を宜しくお願い申し上げます。

(備考：上記金額は千の単位で四捨五入)

2022 年度予算案は、質問・異議なく、原案の通り承認された。

(7) 2022 年度日本人会理事選挙結果報告 (守護選挙管理委員長)

会則・選挙に関する規則に従って選出理事候補の推薦を受け付け、既に会員に通知した通り、法人会員登録名義人から理事 11 名、個人会員から理事 4 名が当選したことが報告された。

(i) 法人会員登録名義人からの理事 (定員 11 名)

|   |       |                                                         |
|---|-------|---------------------------------------------------------|
| ① | 安部 智晴 | Ajinomoto (Malaysia) Bhd                                |
| ② | 伊藤 紀子 | Mizuho Bank, Ltd., Labuan Branch                        |
| ③ | 高松 文生 | MUFG Bank (Malaysia) Bhd                                |
| ④ | 佐藤 興文 | Marubeni Malaysia Sdn Bhd                               |
| ⑤ | 鎌田 憲二 | Panasonic Manufacturing Malaysia Bhd                    |
| ⑥ | 白石 雅資 | Mitsubishi Corporation                                  |
| ⑦ | 児島 大司 | Mitsui & Co. (Malaysia) Sdn Bhd                         |
| ⑧ | 堀口 勝人 | Sumitomo Corporation Asia & Oceania Pte Ltd., KL Branch |
| ⑨ | 大川 博  | Sumitomo Mitsui Banking Corporation Malaysia Bhd        |
| ⑩ | 岡部 養明 | Tokio Marine Life Insurance Malaysia Bhd                |
| ⑪ | 小沢 史朗 | Hong Leong Assurance Bhd                                |

(会員番号順、敬称略)

(ii) 個人会員からの理事 (定員 4 名)

|   |       |
|---|-------|
| ① | 藤井 純一 |
| ② | 熊谷 敦子 |
| ③ | 松尾 義裕 |
| ④ | 杉山 雄一 |

(会員番号順、敬称略)

(8) 2022 年度新会長選出報告 (堀口総務委員長)

選出理事 15 名により構成される第 1 回暫定理事会 (5 月 24 日開催) にて新会長を互選し、岡部 養明氏 (Tokio Marine Life Insurance Malaysia Bhd) が全会一致で選出されたことが報告された。

(9) 2022 年度任命理事氏名の報告 (岡部新会長)

第 2 回暫定理事会にて、次の 14 名が任命理事に選出されたことが報告された。(敬称略・順不同)

(i) 個人会員又は法人会員登録名義人の中から

|   |        |                                  |         |
|---|--------|----------------------------------|---------|
| 1 | 小田 竜介  | Hakuhodo (M) Sdn Bhd             | 法人登録名義人 |
| 2 | 小野澤 麻衣 | JETRO Kuala Lumpur               | 法人登録名義人 |
| 3 | 小幡 貴志  | UMW Toyota Motor Sdn Bhd         | 法人登録名義人 |
| 4 | 香取 龍太  | Sojitz (Malaysia) Sdn Bhd        | 法人登録名義人 |
| 5 | 神林 義之  | Likearisingsun Sdn Bhd           | 法人登録名義人 |
| 6 | 阪口 智弘  | Japan Airlines Co Ltd            | 法人登録名義人 |
| 7 | 荘司 憲一  | Toyota Tsusho (Malaysia) Sdn Bhd | 法人登録名義人 |

|    |       |                                               |         |
|----|-------|-----------------------------------------------|---------|
| 8  | 瀧澤 征彦 | Japan International Cooperation Agency (JICA) | 法人登録名義人 |
| 9  | 中島 裕美 | Hitachi Sunway Information Systems Sdn Bhd    | 法人登録名義人 |
| 10 | 平田 順久 | Sato Kogyo (M) Sdn Bhd                        | 法人登録名義人 |
| 11 | 福岡 浩人 | Eneos Corporation                             | 法人登録名義人 |
| 12 | 星合 大  | Itochu Malaysia Sdn Bhd                       | 法人登録名義人 |
| 13 | 本村 努  | Aeon Co (M) Bhd                               | 法人登録名義人 |

(ii) 在マレーシア日本国大使館から

|   |        |                  |      |
|---|--------|------------------|------|
| 1 | 山田 元一郎 | Embassy of Japan | 個人会員 |
|---|--------|------------------|------|

(10) 岡部新会長の挨拶（要旨）

昨年度に続き、2022 年度もクアラルンプール日本人会会長を務めさせて頂く事になりました。当会の運営に当たっては顧問、理事、監事、管財人をはじめ、多くの方々から惜しみないご協力を頂き、会則にある当会の目的、即ち「会員相互の親睦、互助を図り、日本とマレーシアの友好・親善の促進に貢献する」に沿った活動を続けて参りました。この場をお借りして御礼申し上げます。在マレーシア日本国大使館及び関係各機関のご支援のもと、今後も当地の在留邦人の中心的コミュニティとして当会の運営に努めて参りたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大により当会の活動も大きな影響を受けて来ましたが、ようやく回復し始めました。7 月 16 日には盆踊り大会を 3 年ぶりに開催予定です。

様々な環境変化を受け、盆踊り実行委員会の皆さまには大変なご苦勞を頂いておりますが、在マレーシア日本大使館を初めとする関係各方面より全面的なご支援を頂き、またこれまで先人が築き上げてきたマレーシアの方々との友情と信頼に基づいた応援も頂き、準備を進めています。

コロナ禍からの復活、そして東方政策 40 周年という記念の年に「日マの友好・親善の促進に貢献する」象徴として、多くの方にご来場頂き、盛大な会となることを祈っています。

当会では 2020 年以降、本帰国により退会された方や、一時帰国により休会された会員が急増しました。財務面や、理事の派遣等による運営支援の面にて、当会を発足当初より支えて頂いております法人会員の企業におかれては、経済構造の変化の中で駐在員数が減少しているところも少なくありません。クアラルンプールでの生活は非常に便利になり、また生活スタイルが変わって行く中で、当会が果たすべき役割を改めて考え、会員の皆さまと知恵を出し合い、日本人会の新しいスタイルを模索して参りたいと思いますので、ご理解とご協力を宜しく願い申し上げます。

最後に、クアラルンプール日本人会が、多くの会員の皆様に長く親しまれる会として発展していくことを祈念し、私の挨拶といたします。

(11) 質疑応答

特になし

■ 閉会の辞

(柳井事務局長)

以上